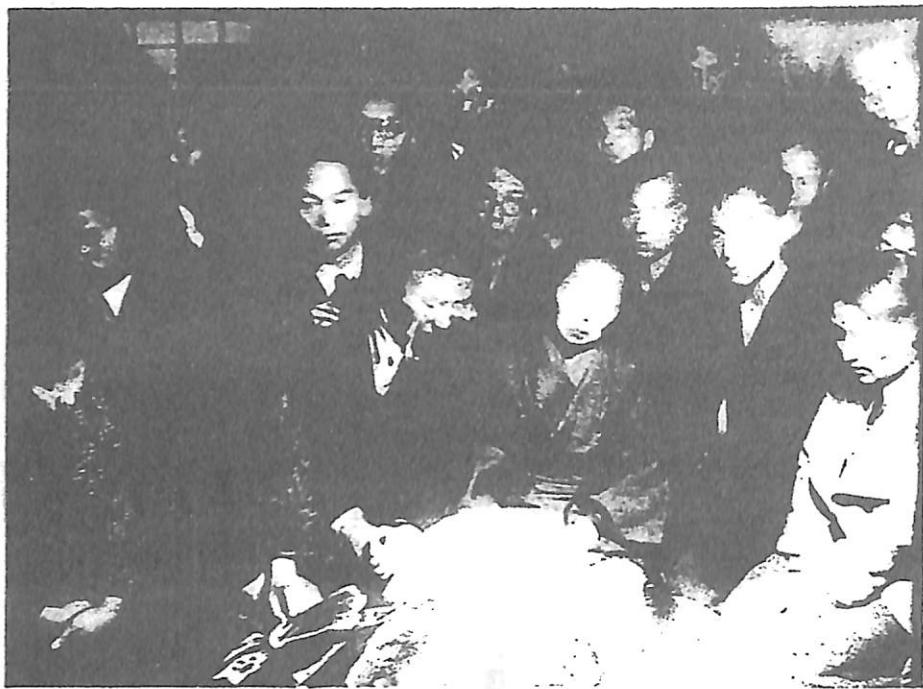


小林多喜二をめぐる 岩手の人びとを探す

～『新しき明日をめざして』を読む ②～



▲築地署で虐殺された小林多喜二の遺体枕辺で悲しみにくれる母・セキさん（中央）と弟・三吾さん（その左）、かけつけた友人たち——1933（昭和8）年2月21日深夜、杉並区・阿佐ヶ谷の自宅で＝撮影・貴司山治／提供・伊藤純氏（2015年、82年ぶりに発見公開された写真）

治安維持法といえば、すぐさま小林多喜二を連想する人は多いだろう。
「蟹工船」「一九二八年三月十五日」「不在地主」などの作品が（→2Pへ）

敵基地攻撃能力なんてとんでもない
▼岸田内閣誕生以来、敵基地攻撃能
力が盛んに語られるようになつた。
安倍前首相が敵の基地をせん滅させ
るので息まき、敵基地攻撃能力を
保持さえすれば我が国は安全だと言わんば
かりである。ミサイル攻撃抑止のためとい
う岸田首相を応援するかのよう北朝鮮が
ミサイルを撃ち始めた。敵基地攻撃能力を
保持したら、北朝鮮はミサイルの発射を止
めるだろうか。いや更なる兵器の開発に向
かうのではないか。▼ベトナム戦争の時、
沖縄の基地から米軍の爆撃機が出動した。
沖縄の人たちが辺野古新基地建設に反対す
るのは当然である。膨大な税金を投入し、
基地があることこそ危険なのである。▼コ
ロナ感染者が三百万人を超える死者が二万人
に迫っている。コロナ禍で苦しむ国民を尻
目に莫大なお金を軍備につぎ込む姿は、ミ
サイルを撃ちまくっている国と大して変わ
らないよう思えるのだが。▼ひとたび戦
争になつたら、一番被害を被るのはひとり
人の国民である。軍事力に頼らない平和
への道こそ、平和憲法も持つ國の進むべき
道！改憲を許してはならない！（D）



発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区
湯島2-4-2全労連会館
国賠同盟岩手県本部
〒020-0013盛岡市愛宕町
17-4 牛山靖夫
T/F 019-623-8648

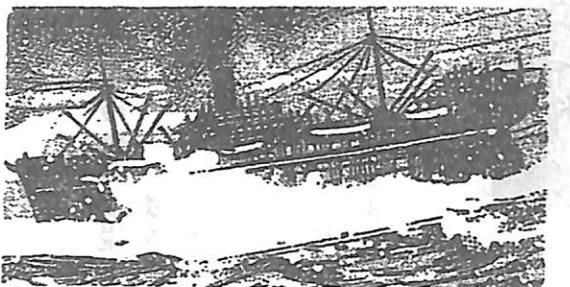
- ▼小林多喜二をめぐる岩手の人びとを探す
①石川啄木②鶴彬③佐藤欣治④川村金一郎⑤高橋
テミ⑥蟹工船のモデル「秩父丸」⑦盛岡郵便局の
青年たち⑧松浦繁蔵⑨柳館与吉⑩柴田稻蔵
- ▼岩手における多喜二祭と映画上映
▼国賠女性部学習会

一寸一言

敵基地攻撃能力なんてとんでもない

▼岸田内閣誕生以来、敵基地攻撃能
力が盛んに語られるようになつた。

安倍前首相が敵の基地をせん滅させ
るので息まき、敵基地攻撃能力を
保持さえすれば我が国は安全だと言わんば
かりである。ミサイル攻撃抑止のためとい
う岸田首相を応援するかのよう北朝鮮が
ミサイルを撃ち始めた。敵基地攻撃能力を
保持したら、北朝鮮はミサイルの発射を止
めるだろうか。いや更なる兵器の開発に向
かうのではないか。▼ベトナム戦争の時、
沖縄の基地から米軍の爆撃機が出動した。
沖縄の人たちが辺野古新基地建設に反対す
るのは当然である。膨大な税金を投入し、
基地があることこそ危険なのである。▼コ
ロナ感染者が三百万人を超える死者が二万人
に迫っている。コロナ禍で苦しむ国民を尻
目に莫大なお金を軍備につぎ込む姿は、ミ
サイルを撃ちまくっている国と大して変わ
らないよう思えるのだが。▼ひとたび戦
争になつたら、一番被害を被るのはひとり
人の国民である。軍事力に頼らない平和
への道こそ、平和憲法も持つ國の進むべき
道！改憲を許してはならない！（D）



岩手県出身の乗組員は47人で、生存者17人、行方不明29人、船内死亡1人、30人が犠牲になつてゐる。15才、17才の少年もいれば二度目の応募で遭難した者もいる。多くは岩手郡、紫波郡の人たちで、日雇い稼ぎで家族を養つていたなど、みんな貧しい暮らしだつた。

「岩手日報」は犠牲者一人ひとりの自宅

⑥ 「蟹工船」のモデルとは?

秩父丸の遭難と岩手の乗組員

心ある人々は、あとからあとからと人民解放の斗いに参加されるでしょう」と、高橋はノートに記してある。

〔蟹工船〕には角材の下になつて海の中へたゞき込まれた、〔南北部センベイより薄くされた〕労働者の話もでてくるが、岩手との闘りでは秩父丸の遭難事件のことがある。

小説には無線士からSOS信号が送られてきたことを告げられた船長が救助に向かおうとすると、監督の浅川がこう怒鳴りつける場面が描かれている。

「あんなものにかかわってみろ、一週間もフイになるんだ」。
〔それに秩父丸には勿体ない程の保険がつけてあるんだ。ボロ船だ。沈んだら、かえつて得するんだ〕。

1932年(S7)の弾圧事件では盛岡の郵便局で5人が検挙された。『第二無産者新聞』や多喜二の小説「蟹工船」を持っていたからであった。【中田耕三】

「無産者新聞」は共産党の新聞で、非合法だった「赤旗」とは別に合法機関紙として、治安維持法が公布された25年9月に創刊され、月2回、翌年からは週刊となつた。発行部数は2万部から最高時は4万部前後に達し、戦前の社会運動の機関紙では最大規模のものとして大きな影響力をもつた。

しかし弾圧で29年8月に廃刊となり、9月から非合法で「第二無産者新聞」が発刊された。31年9月に満州事変が勃発し、中国への15年戦争が開始されると、「第二無新」は日本軍の侵略を暴露し、「帝国主義戦争と闘え！」と主張した。そういう新聞だった。

検挙された一人は新潮社発行の多喜二の小説「蟹工船」を持っていただけだった。

卷之三

と揃つていただけで

を訪ねて家族の様子を伝えている。『社説』で3度もくり返し義捐金を訴え犠牲者家族の救済に当たつてはいる。

⑤非公然活動を支援した高橋テミ
多喜二の演説会に出でた

の元看護婦高橋テミは、若いときに

私もモップル（救援会）の活動で経験したんですが、片岡鉄兵たちの差入れに行つたことがあります。腕を動かすたびに繩が締まり、首に食い込む、警察で二階の特高室に上げられ、椅子に座れと云われて座つたとたん、いきなり竹刀で腕を何度も叩かれました。両腕が紫色にはれあがり、血がないじんで黒くなるんです。特高の拷問、弾圧というのは本当に許せない、ひどいものでした)。

〔92年2月川村宅で〕

多喜二の演説会にも行つた。警官が入口の両側にぎつしり並んだ間を会場に入つたが、「弁士中止」の連続で、結局、多喜二是出席できなかつた。

取り、1922（T11）年4月横浜根岸のサナトリウムに就職した。1930（S5）年頃、寄宿舎を訪ねてきた青年にすすめられ、「戦旗」、小林多喜二の「蟹工船」、河上肇の「第二貧乏物語」などを読み、大山郁夫の総選挙の演説会にも参加した。

妹と同居した借家に非合法化の共産党系青年たちが集まるようになり、赤色救援会のニュースの印刷や郵便局を変えながら全国に発送する仕事を手伝つたり、募金集めをしたり、レポ「連絡係」をす

「不屈」岩手版2022年2月15日No 3 3 9



、と数人ずつそれぞれ国電の方へ走つていつたのを覚えてます」。『多喜二』の遺体の写真をみると太ももが丸太のように異常にはれ、いたるところ真っ黒になつてゐる——。

私もモップル（救援会）の活動で経験したんですが、片岡鉄兵たちの差入れに行つたことで、事務所で捕まり、後ろ手に縄で縛られ、バスで早稲田署に送られました。腕を動かすたびに縄が締まり、首に食い込む、警察で二階の特高室に上げられ、椅子に座れと云われて座つたとたん、いきなり竹刀で腕を何度も叩かれました。両腕が紫色にはれあがり、血がないじんで黒くなるんです。特高の拷問、弾圧というのは本当に許せない、ひどいものでした》。

〔92年2月川村宅で〕

できなかつた。
そうした中で、お互い姓名を名乗らないので、高橋たちは「東京のおじさん」と呼んでいた活動家がいた。

1933(S8)年3月頃、「おじさん」は急に来なくなつた。同じ頃、高橋は持病の眼病が悪化したため岩手の生家にもどり、回復してからは黒沢尻病院(済生会病院)で働くことになつた。のちに看護婦長になつた。

1933(S8)年初夏、横浜の療養所で働く姪と、そこに入院している人から手紙が来た。差出人は初めて姓名のわかつた「東京のおじさん」こと樅山(もみやま)雅彦だった。腸結核がだいぶ進

高橋はタオルの寝間着と自分の写真と激励の手紙を送った。數ヶ月たつて再び姪から手紙が来た。「おじさん」に呼ばれて病室に行くと、見舞いに送った寝間着を着ていた。「インターナショナルのレコードをかけてくれ」と云うので繰り返しかけてやると、静かに聞いていたのに、その翌日逝ってしまったとあつた。

（樅山雅彦君、生前の活動ご苦労様、ゆつくり永眠されよ。身命をかけた君のナハ、（ここから）はふ、（奥）星（こめ）（一）（おとこ）（一）（おとこ）

北上出身の元看護婦高橋テミは「若いときに横浜で働いていた頃の体験を『大正の終りから昭和9年までのノートから』という手記にして書き残している。【解説編21】

ブームがあつた。新潮文庫の「蟹工船」は例年なら5000部ほどだが、この年は35万7000部を出版し、105刷となつてゐる。全体では100数十万部も普及した。

⑧山宣最後の演説を聞いた松浦繁蔵

獄中で多喜二の死を知らされた

九戸村の松浦繁蔵は16才で大阪市電の車掌となり、労組の青年部活動に参加した。1929年(S4)3月4日、天王寺公会堂で全国農民組合の大会が開かれたとき、そこで山本宣治がおこなつた歴史にのこる有名な演説を聴いている。〔解説編14、松浦繁蔵〕

「山宣ひとり孤墨を守る。だが私は淋しくない。背後には大衆が支

持しているから」――。

翌日、天皇の緊急勅令によつて死刑法に改悪された治安維持法の事後承認案が帝国議会にかけられた。だが、山宣の反対討論は封じられ、賛成249票、反対170票で承認された。

その夜、宿舎に戻つた山宣は右翼の青年に刺殺された(後に特高警察の指示によるものと判明している)。

3年後、松浦は共産青年同盟に加入する。それを共産党に入党したとして検挙され、3年間の投獄となつた。

松浦は拷問によつて〈多喜二〉の小説のように「私は一度殺された」という。

また多喜二が虐殺されたとき、「多喜二が殺されたぞ」と誰かが叫んで監獄のみんなに知らせてくれた」と語つた。

松浦は戦後は九戸村議を5期つとめ、国賠同盟では顧問であつた。

多喜二が殺された翌月、盛岡市神子田のアジト(たまり場)で56人で密かに追悼会を持つた。暗い電灯の下でお茶をすりながら民衆の旗、赤旗は、戦士のかばねをつづむと声をひそめてうたい、多喜二の死をとむらいました。「赤旗の歌」を聞かれただけで逮捕される時代でした」と柳館は語つていた。

多喜二是1933年(S8)2月20日に検挙され、特高の拷問で7時間後に虐殺された。満州事変の後の、ますます戦争が拡大されたといったこの年は弾圧がピークであった。

3月3日には三陸大津波があり、全国で労農救援活動に参加した300人が検挙された。東京の無産診療所の砂間秋子看護婦らは、ようやく田老役場にたどりつき、救援募金と物資を渡し、診察を始めたとたん特高に検挙され盛岡署に引き戻された。

5月には柳館らも盛岡消費組合事件で検挙され、8人が起訴された。盛岡市役所に勤めていた柳館は消費組合の活動を通じて、全協＝日本労働組合全国協議会の一般使用人組合を組織しようとしていた。

全協は共産党の外郭団体とみなされ、弾圧された。



拷問の傷痕も生き残る多喜二の遺体
(1933年2月21日深夜、馬橋の家で)



戦旗社、1930年5月刊

⑩多喜二の小説を読んでいたから

拷問に耐え抜いた柴田稻藏

盛岡消費組合事件では、起訴は免れたが、検挙された一人に当時19才だった岩手町御堂生まれの柴田稻藏がいた。柴田からは国賠同盟ができる間もない1993年1月に戦前の活動と体験を聞くことができた。〔柴田稻藏〕

柴田は東京は龜戸の消費組合から安い木炭を送つてくれないかという話があり、沼宮内に木炭生産組合をつくって、木炭を集めめた。木炭は地主の旦那方が支配していて、炭を焼く人には木を買う金も窯を造る金も貸して、炭を焼かせる。できた炭は2～3割安く買ひ取り、貸した金の利子をとる。他所に売つてはならないという仕組みだつた。

盛岡の消費組合と連絡をとるために駅前で捕まり、いまは壊されたが岩手公園下の武徳殿に連れ込まれた。柔剣道をやる広いところで痛めつけられ、何度も氣絶した。気づいたときは盛岡署だった。傷が治つてから、終列車で沼宮署に回された。オヤジから弁当の差入れがあつて、油揚げをかじつたら中に紙が入つていた。拘留期限が過ぎたので出すのかと思つてみると、「ちょっと町でも見るか」というような話をする。ちょっと出てから、「まあもう少しいろや」と、また警察に戻された。

岩手における多喜二祭と映画上映

- 1952.3.1 多喜二祭 新岩手詩人集団主催
150名参加
- 1970.3.11 多喜二祭(教育会館)
- 1993.3.15 多喜二没後60周年、3・15 弹圧記念の集い 主催:国賠同盟・民主主義文学同盟・民青同盟(勤労福祉社会館) 50名参加
- 1993.5.24 映画「小林多喜二」上映会(県民会館)
- 2005.10.13 映画「時代を撃て・多喜二」国賀同盟主催 294人鑑賞
- 2008.6.22 没後75周年「多喜二の作品を語る集い」民主主義文学連盟主催 85名参加
- 2017年 映画「母～小林多喜二の母の物語～」上映運動 盛岡市、北上市、東和町、奥州市、一関市で4000人以上が鑑賞した。

⑧多喜二を追悼した柳館与吉らは直後に消費組合事件で検挙された

多喜二の虐殺を知つて密かに追悼した盛岡の青年たちがいた。いまの生協活動の前身である盛岡消費組合の活動をしていた柳館与吉たちである。〔柳館与吉〕

多喜二が殺された翌月、盛岡市神子田のアジト(たまり場)で56人で密かに追悼会を持つた。暗い電灯の下でお茶をすりながら民衆の旗、赤旗は、戦士のかばねをつづむと声をひそめてう

たい、多喜二の死をとむらいました。「赤旗の歌」を聞かれただけで逮捕される時代でした」と柳館は語つていた。

多喜二是1933年(S8)2月20日に検挙され、特高の拷問で7時間後に虐殺された。満州事変の後の、ますます戦争が拡大されたといつたこの年は弾圧がピークであった。

3月3日には三陸大津波があり、全国で労農救援活動に参加した300人が検挙された。東京の無産診療所の砂間秋子看護婦らは、

ようやく田老役場にたどりつき、救援募金と物資を渡し、診察を始めたとたん特高に検挙され盛岡署に引き戻された。

5月には柳館らも盛岡消費組合事件で検挙され、8人が起訴された。盛岡市役所に勤めていた柳館は消費組合の活動を通じて、全協＝日本労働組合全国協議会の一般使用人組合を組織しようとしていた。

全協は共産党の外郭団体とみなされ、弾圧された。

伊藤千代子と夫・浅野晃 二人を分けたもの……

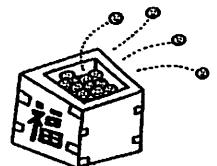
今回の学習のテーマはずばり『転向』です。

『治安維持法と現代』秋季号 石城謙吉さんの研究・レポート「浅野晃—その転向の軌跡—」を読みあつた後、感想を出し合いました。私は夫浅野晃の転向の軌跡に怒りを感じながら読んでいたので「『転向』が、どれほど心の奥に暗い影を落とし続けるものであったか」という感想が最初に飛び込んできてはつとしました。「浅野は転向後千代子を抹殺してしまった」「『転向』という言葉は権力が作ったもの」などの意見に厳しい時代に生きることの難しさをあらためて考えさせられました。「権力のもとで生き方を変えて『転向』し、その転向を逆手にとって生きた」浅野晃について、皆さんの意見を聞いて少し幅を持って見ることができました。

今回の学習を経て、映画で千代子がどのように描かれるのか楽しみです。千代子について学習してきた参加者から、「千代子は東京女子大学で学んでいたとき、すごく勉強していた」という発言が心に残りました。千代子はひたすら真実を求めて生きたのではないか。千代子は浅野晃と出会って半年余りで結婚しているけれど、彼は千代子にとって共産党への入り口でしかなかったのではないか。男性中心の明治憲法のもとでそれにどっぷりつかって生きていた夫。浅野には千代子を一人の女性として人間として認めるという視点はなかった。だから、浅野は転向した時千代子が自分についてくると思っていたのではないか。しかし千代子は女性として人間として生きることが難しい時代に自分の生き方を選び取っている。必死で学んで真実を求めていたから転向なんかできなかった。浅野とは違っている。この千代子の生き方から学ぶものは大きいものがある、という意見には納得です。

後半は織田秀雄からピカソと女性の問題まで出てきて、女性の生き方、男性の生き方、ジェンダーの問題にまで発展していきました。改憲勢力は私たちを戸籍に縛り付けようとしています。男性中心の明治憲法が日本国民にもたらしたものは歴史が教えていて。社会が戦前と似た道を進み始めていると言われている今、参加者の想いもそこに集約されていったのでしょうか。皆さんのお話を耳を澄ましていた参加者の方が「私の母は戦争が終わったとき、私たち三人の子どもを連れて苦労して大陸から帰ってきた。父と離れ離れになるとき、父は幼い妹が足手まといになったときのために母にピストルを渡したそうです。いろんな人に助けられて私を含め三人の子どもを無事に連れて帰ってきました。強い母だった。」という発言がありました。千代子の生き方と強く生きた「母の生き方」と重なるところがあったのだと思います。貴重なお話をでした。

皆さんのお話に力をいただき、今年も、学び、行動する一年にしようという決意をあらたにしました。（松本玲子記）



次回 女性部学習会

2月22日(火)

13:30~15:30

於：盛岡市中央公民館

2022.2.18. (金) 13:30~

於：浅沼ビル6F労働者後援会

ときう

映画「時代を撃て・多喜二」を観る会